

特長

SRM-T1はスタックスのコンデンサーイヤースピーカー SRシリーズをドライブするドライバーユニットです。出力段に真空管を採用し、トランジスターとは一味違った透明度の高いクリアーな音をお楽しみいただけます。

- アンプ部とイヤースピーカーの間にトランスが介在しませんから、トランスによる音質劣化がありません。
- 初段にデュアルFET、2段目に6FQ7という高耐圧の双三極管を用いたシンプルな2段構成により、素直な特性と真空管の良さを活かした透明度の高い音質を実現しています。
- 音質上、好ましく無い出力コンデンサーを取除いたDC回路です。
- シャーシーおよび電子パーツから、音質に悪影響のある鉄などの磁性体を排除しました。
- 抵抗、コンデンサーにはCDプレーヤーの開発等で得られた音質の特に優れたものを採用しています。
- パワースイッチONですぐ音出しのできるプリヒートスイッチを設けてあります。
- プロシリーズのイヤースピーカー（SR-Σ Pro、SR-A Signature、SR-A Professional等）が2台同時にドライブ出来るようにハイバイアスイヤースピーカーアウトプットを2組とノーマルバイアス出力を1組装備し、古くからイヤースピーカーをご愛用の方にも最新のプロシリーズとノーマルタイプを比較していただけます。
- 入力にバラレルに接続された出力端子を装備し、録音時のモニター等の便を計りました。

使用上の注意

- SRM-T1の内部には高圧部があり危険ですので、真空管交換などの場合はカバーをはずしたり、水に濡れやすい場所での使用は避けてください。
- SRM-T1は発熱しますので本体上下の通気穴がふさがったりすることが無いようご注意ください。
- 大音量で長時間の使用は耳のためにも良くありませんのでご注意ください。
- 危険ですので通気穴に針金やドライバー、ピン等を差し込んだりし無いようご注意ください。
- プリヒートスイッチを常時ONにしておきますと真空管の寿命が短くなります。長時間お使いにならない場合はプリヒートスイッチをOFFにしてください。
- プリヒートスイッチについて：プリヒートとはSRM-T1に使っています真空管のヒーターを予め通電しておき、電源スイッチONですぐ音出しをするための機能です。このSRM-T1では、プリヒートスイッチを押しますと、スイッチ上の緑のLEDが点滅し、約18秒後に点灯に変わります。この状態で真空管のヒーターが音出し状態の約半分の電圧でプリヒートされています。更にパワースイッチを押しますと、音が出る状態になります。

使用法

SRM-T1は入力にCDプレーヤー、チューナー、テープデッキ(DAT)のほかプリメインアンプ、プリアンプのREC OUTから直接接続してお楽しみいただけます。また、電子楽器にも接続できます。

- (1) 聴きたいソースを付属のピンコードで入力端子に接続してください。プリメインアンプまたはプリアンプのプリアウト端子がREC OUT端子に接続しますと、アンプのセレクターによってプログラムソースが選択できます。音質的には各機器をダイレクトに接続するほうが有利ですが、十分な音量が得られないことがあります。このような時は、プリアウト端子に接続してください。プリアウト端子が1組しかない場合は、SRM-T1の出力端子(入力端子と並列接続)にパワーアンプなどが接続できます。
- (2) ACコードをコンセントに、イヤースピーカーのプラグをイヤースピーカーコンセントにそれぞれ差し込みます。
- (3) ヴォリュームつまみを絞りきってからプリヒートスイッチとパワースイッチを押してください。プリヒートスイッチを押しませんと音出し状態になりません。
(各部の名称を参照ください。)
- (4) ヴォリュームを右にまわして最適な音量に調整してください。ツマミをL/R別にまわしますと左右のバランスを調整できます。